

北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会
〒803-0817 北九州市小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
Tel.093-592-5000 Fax093-571-4346
E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同

北九州革新懇 インタビュー

プロフィール 下河辺建彦(しもこうべたてひこ) 医療法人健愛会下河辺医院院長
1962 年生まれ。北九州市戸畑区出身。
1989 年福岡大学医学部卒業。福岡大学医学部整形外科教室入局。
1992 年下河辺医院院長。



11月29日、昼の休憩時間に下河辺医院を訪問し、青木信恭と須崎和幸二人で下河辺建彦先生にインタビューしました。

■ 医療問題で最近考えておられることは、どんな事でしょうか。

下河辺 最近の長く続く景気低迷、消費行動の抑制は、医療の受診抑制も例外ではありません。戸畑区の高齢者比率は、28.8パーセント。門司や八幡東区よりは低いですが、高齢化する戸畑を守ることを第一に考えねばなりません。高齢者にとってかかり遅れは重大な事になり、適正な医療の提供を地域ぐるみで高齢者を守っていかねばならないということです。適正な医療の問題でもう一つ憂慮していることは、整骨院、これは医療機関ではありませんが、皆さん漠然と通っています。腰が痛い、肩がこるが医者に行くほどではないと考えて多くの方が整骨院に通っていますが、やっていいことは決められていて、柔道整復師法第 17 条で、「医師の同意を得た場合のほか脱臼又は骨折

の患部に施術をしてはならない。ただし応急手当をする場合はこの限りでない。」と決められています。しかし、実態は、数ヶ月も脱臼や骨折で通院している現状があります。整形医療費は全体で 5600 億円です。これには、治療費も薬剤もリハビリも入っていますが、他方、整骨院の治療費は応急手当だけで 3800 億円が整骨医療費です。これはおかしい。行政がこの違法実態を見過ごしていることはいかがかとおもっています。

整骨院では骨折、脱臼の応急処置以外は行ってはならないのに、資格を持っていない、学習もしていない人が、マッサージもどきをすることは、視覚障害者の働く場所を奪っていることになる。視覚という最も大切なものの障害を持っている方の働く場所を奪うということを許してはいけないと思っています。厳しく法律を適用

すれば野放し状態に歯止めをかけることが出来る。まじめにやっている方もいますが、違法行為を行政が野放しにしていることはいかがかと思っています。

■ 消費税増税問題をどうお考えでしょうか。

下河辺 消費税の増税はいろいろの問題があると思っています。私の仕事で言えば、パートの看護師の問題です。意欲、資格、体力を持っている方が、配偶者控除の問題で働きたいけれど御主人に迷惑をかけるので働けない。これが、ナース不足につながっているのではないのでしょうか。他の場所、たとえばファミリーレストランで、この人数でこの時間は乗り切れるのかというような場面にしばしば遭遇します。ですから、配偶者控除の見直しなどをしっかりやっていただいて労働者の働く意欲をもっと高めていっていただきたい。そうすれば、収入が増え消費活動も活発化して納税も増え、増税の必要もなくなるのではと思います。

医療行為は非課税ですか、医薬品、医療器具、全て消費税を払っています。建物の改修にも消費税を支払っています。厚労省は、診療報酬や薬価の改定で抑えているとっていますが、医療行為には消費税をかけるのではなく、せめて還付の流れを作してほしいですね。このまま続くと世界に誇る国民皆保険制度がつぶされることになるのではと、心配です。小さくとも声を上げることが大事だと思います。

また、消費税を上げるより、法人減税に待ったをかけてでも、個人消費を上げることに取り組んでほしいものです。

■ ソフトバンクは13年度の法人税は 500 万円だったようです。

■ トヨタも5年間税金を払ってなかったとの事です。

下河辺 利益を得たからには還元していただくことはやってほしいと思います。

■ 原発問題について日頃感じておられる事をお聞かせ下さい

下河辺 原発問題はむずかしい問題ですね。

原発は、子孫に核の廃棄物を残します。脱原発はCO2を子孫に残します。どちらも子孫に対する犯罪行為です。だからといって家庭に入っている電線はずして電気を使わないこと

は出来ません。

私には二人の子どもがいます。今は成人していますが小さい頃には海水浴に連れて行ったものです。帰りの車の中で寝ている子どもの顔を見て、この子どもたちが大人になって親として子どもを海水浴に連れて行く海が残っているのだろうかと思ったものです。少しでも地球に恩返しをしなければと思っています。

私の医院ではかなり前から証明はLEDに切り替えていますし、旅行に行くときは出来るだけ公共交通を活用しています。子どもたちにもエコを教えています。地球に育ててもらった私たちは、地球という母親に恩返しをしなければと思います。

玄海原発から 30Kmが避難地域ですが、圧力容器が壊れるような重大事故の場合は、影響が 100Km に及びます。丁度牧山付近になります。ですから戸畑も他人事ではないのです。対岸の火事と考えてはいけません。風向きによっては玄海原発のほうが北九州への影響は大きいと思います。

北九州市としても、脱原発しながら、CO2を抑える方法を目指すべきです。小さい子どもたちが、海水浴が出来、公園で土遊びが出来る環境を残すのが私たち大人の責任だと思います。

■ 集団的自衛権行使容認の「閣議決定」についてどんなお考えかお聞かせください。

下河辺 これはまた、若者の命に関わる問題でもあります。

私なりに調べましたが、同盟国に対して仕掛けられた戦争に対して、「行使してもよい」との事なので少し安心しました。必ず行使しなければならないのではないので少し安心したのです。いわば外交のカードとして使えるということだと理解しました。同盟国から依頼があつての行使に対し、近隣諸国から圧力、即ち日本へ武力介入になるので行使は難しいと思います。

■ 私たちが懸念しているのは行使しないこともあるというのではなく、安倍内閣は行使を前提に考えていると思います。実際にアメリカ軍との共同訓練を重ね、武器も新たに調達していますし、アメリカとの共同作戦を考えていると思

ます。

下河辺 行使できる権利はあるが、自分が生きている間は行使しなかったねと振り返る事態であってほしいと思います。

同盟国の自国の空の下で生まれた子どもが、自国で志願し訓練し、親とも離れて来て、日本をはじめとする諸外国の盾になってくれることは尊い気持ちだとは思いますが、出来れば日本の自衛隊の武力は決して抜くことのない居合いの力であってほしいと願っています。

■ 安倍内閣はそんな内閣ではなく、これまでにない右翼内閣ではないでしょうか。

下河辺 今回のやけくそのような解散に対してある評論家が、「この師走の忙しい時に無党派層の人々が投票に行くことはない、このことを狙って投票に出たら、地盤の強い自民党が絶対に勝つ」といっていましたがそのとおりだと思います。

心配なのは沖縄です。先日の沖縄県知事選挙では、辺野古への移転反対となりましたがこのままでいいのだろうか。沖縄の方々も普天間基地は移設しないで良いと決断したのでしようか。

■ 政府は普天間基地の移設と辺野古への基地建設の二つをアメリカと約束しましたが、そもそもこれがボタンのかけ違いで、沖縄県民の気持ちは、普天間基地撤去、辺野古への移設反対の二つで気持ちが一つになっており、これ

が沖縄の全ての市長村の「建白書」になっています。ですから日本政府はこの立場でアメリカに県民の意思はこうだと主張すべきだと思います。

下河辺 私は2回沖縄に行きましたが、普天間は大きな基地ですね。あれが町の中にどっかりとあります。私が最初に沖縄に行ったのは戸畑高校の修学旅行です。余談ですが公立高校の修学旅行で沖縄に行ったのはこれが最初だということでした。ひめゆり部隊と同じ18歳で沖縄の戦跡を巡りました。その後30年後、学会出張の際ひめゆり部隊の父親の年齢でまた戦跡を見たのです。

18歳の子どもの命を無駄に散らしてはいかん。父親として、武器では子どもの命は守れないですね。自分の一票でまもりたい。そのために自分の選挙権を使いたいですね。そう感じた沖縄旅行でした。

■ 今日はありがとうございました。



＝総選挙の結果について＝

(東京革新懇 HP 2014年12月31日から)

総選挙で最も議席を増やしたのは共産党だった

五十嵐 仁 (元法政大学教授)

安倍政権の「作戦勝ち」

突然の解散・総選挙によって与党は絶対多数を維持し、「安倍一強体制」はさらに強まったかのように見えます。突然の解散で有権者が寝ぼけているうちに景気回復という美味しそうな餌を掲げて票をかっさらう。今回の総選挙は、このような安倍首相の「作戦勝ち」に終わったように見えますが、しかしそれだけでしょうか。

景気回復に期待を寄せた人は自民党に、安倍首相につけあがって欲しくないと思った人は民主



党や公明党に、きっぱりと「暴走」をストップさせてほしいと望んだ人は共産党に投票したように思われます。なかでも、暴走ストップを願う人は最も多

「亡国の政治」が加速

自民党は291議席となって解散前より2議席減りましたが、4議席増で35議席となった公明党と合わせれば与党全体で326議席となり衆院の3分の2を超えました。安倍首相はこれまで進んできた「この道」が信任されたと強弁するにちがいません。「暴走」する「バス」に「給油」するような結果となり、安倍首相による「亡国の政治」が加速される危険性が高まっています。

野党第1党の民主党は73議席になって11議席増やしましたが、当初予想されていたほどの議席回復にはなりません。海江田代表は落選して議席を失い、辞任に追い込まれています。政権交代しても国民の期待を裏切り、政策の一致なき野合のような選挙協力に望みをかけ、

気を吐いた共産党

このようななかで、一人気を吐いたのは共産党です。解散前の8議席から2倍以上の21議席となって躍進し、議案提案権も獲得しました。今度の総選挙で最も議席を増やしたのは共産党で、比例代表の得票数も237万票増と自民党の104万票増を2倍以上、上回っています。

消費税の10%への引き上げ中止を掲げて「安倍暴走政治」に真正面から対決しただけでなく、増税に頼らない別の道があるとして具体的な対案を掲げてきた実績が評価されたわけです。今

「暴走」には厳しいしっぺ返し

今回の総選挙で安倍首相はアベノミクスによる景気回復の一点に争点を絞り、集団的自衛権行使容認、原発再稼働、TPP参加、改憲など他の重要政策課題については徹底した争点隠しに終始しました。自民党への投票は「アベノミクスで景気が良くなるなら、もう少し様子を見てみよう」というもので、一種の「執行猶予」による支持であったと思われま

この先、景気が回復せず、消費不況や物価高で

く、比例代表で自民党の2倍以上も得票を増やして躍進したのは共産党でした。

自民党と対抗することも対案を提起することもできない民主党としては、当然の結果だったと言えます。

前回の総選挙で躍進した「第三極」も振るいませんでした。維新の党は解散前から1議席減の41議席でしたが、前回総選挙での54議席獲得からすれば大きな後退です。みんなの党は分裂し、一部は結いの党を結成して日本維新の会と合流、残りは解散して渡辺喜美前代表は落選しました。維新の会から分かれた次世代の党は一举に17議席も減らして2議席となり、同じく2議席にとどまった生活の党とともに存亡の危機を迎えています。

後の「安倍一強体制」のもと、野党内での発言力が高まった共産党の役割はさらに大きなものとなるでしょう。

しかも、沖縄の小選挙区での選挙協力に成功し、赤嶺候補の当選を実現させました。辺野古での新基地建設を許さないという「一点共闘」に基づく画期的な勝利です。今後、このような「沖縄方式」を広げていけば小選挙制の壁を突破できる展望を生み出した点でも、貴重な経験であったと言えるでしょう。

生活が苦しくなれば、この「猶予」はたちまち解除され、安倍首相には「実刑判決」が下されるにちがいません。それを「白紙委任された」などと勘違いして、集団的自衛権行使容認の法改定や川内原発の再稼働などで新たな「暴走」を始めれば、その時には大きなしっぺ返しを食らうにちがいません。すでに、自民党が全滅した沖縄の小選挙区では、そのような前例が生まれているのですから……。

